令和元年度　長岡市立図書館の活動評価

令和２年７月 29 日

長岡市立中央図書館

令和元年度　長岡市立図書館の活動評価について

１　評価の趣旨

図書館法第７条の３の規定に基づき、令和元年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

２　評価の項目

（１）基本評価（数値目標に対する達成率評価）

数値目標に対する達成率によって評価を行う。

① 利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、実登録者数、インターネットアクセス件数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数、新規購入冊数の割合

（登録率、中央図書館開館日数、特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

（２）重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番５と６は内部評価のみとする。

令和元年度重点事項

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

３　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

４　長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

５　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

６　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

３　評価の方法

（１）図書館の内部評価

・項目ごとに数値目標と比較するなどして算定し、評価する。

・「基本評価」、「重点事項評価」ともに、ＡＡからＣまでの４段階の評価とする。

区　　分	評価区分・内容
基本評価	ＡＡ　･･･ 数値目標を大きく上回った。（＋１０％超）
	Ａ　･･･ 数値目標を達成・上回った。（０～＋１０％）
	Ｂ　･･･ 数値目標を下回った。（０未満～－１０％）
	Ｃ　･･･ 数値目標を大きく下回った。（－１０％超）
重点事項評価	ＡＡ　･･･ 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
	Ａ　･･･ 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
	Ｂ　･･･ 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。
	Ｃ　･･･ 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

（２）図書館協議会による評価

○　協議会の開催

・日　時　　令和２年２月１８日（火曜日）

・会　場　　長岡市立中央図書館講座室１

○　協議会の意見のとりまとめ

・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

４　評価の概要

基本評価は、今年度から目標値と実績値を比較して評価する方法に変更するとともに、中央図書館開館日数など３項目を参考数値に変更した。その結果、評価対象の 10 項目中２項目がＡ評価、８項目がＢ評価となり、Ｃ評価はなかった。

重点事項評価は、事業別評価の１９項目では、AA 評価が３項目、Ａ 評価が １４項目、Ｂが２項目となった。また、総括評価では、Ａ評価が６項目であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっているといえる。

５　図書館協議会意見

（１）「基本評価」について

・利用状況については、入館者数、個人貸出冊数などが前年度より減少しているが、前年度は図書館 100 周年の様々な事業を実施して入館者数が特に多かったこと、平成 29 年度よりは増加していることを考慮すると、利用状況が低下傾向にあるようには感じない。

（２）「重点事項評価」について

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

・歴史的公文書の収集・保存・活用については、資料の性格を考えると活用はなかなか難しいと思うので、項目として掲げているのが適切がどうかを次年度検討してもよいのではないか。

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

・内部評価のとおりとする。

３　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

・来館者数や貸出冊数が目標値を下回ったという理由で B 評価となっているが、所蔵版画展や特設展示コーナーの設置などの事業の質が高かったことを評価して、A 評価への修正について検討するべきである。（協議の結果、A に変更となる。）

４　長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

・内部評価のとおりとする。

５　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

・内部評価のとおりとする。

６　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

・内部評価のとおりとする。

【 目　次 】

Ⅰ　基本評価について

１　利用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

２　管理運営費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅱ　重点事項評価について

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

①　貴重資料の公開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

②　郷土資料の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

③　古文書等の歴史資料の収集・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

④　歴史公文書の収集・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

⑤　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・・ 15

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

①　図書館蔵書の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

②　レファレンスサービス（調べもの相談）の充実 ・・・・・・・・・・・・・・ 19

③　図書館の環境整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

３　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

①　所蔵版画展 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

②　各種機関と連携した事業の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

③　地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施 ・・・・・・・・ 25

４　長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
①　子ども読書活動推進計画関連事業の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
②　中高生向け図書館サービスの充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
③　米百俵号による特別巡回の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

５　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
①　利用者アンケートの実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
②　友の会事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
③　ご意見ポストの設置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

６　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
①　外部研修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
②　職場内研修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38

Ⅰ　基本評価について

1　利用状況

項　　目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		達成率（%）	評価
			達成目標値	年度末実績		
入館者数（中央図書館・人）	304,777	320,532	329,300	312,564	94.9	B
個人貸出冊数(冊)	1,542,576	1,595,593	1,621,000	1,651,636	101.9	A
予約件数（件）	189,948	201,286	211,400	208,806	98.8	B
有効登録者数(人)	46,541	45,719	46,600	45,258	97.1	B
登録率（%）	17.11	16.94	—	16.86		参考数値
実登録者数（人）	34,956	35,196	35,900	34,223	95.3	B
登録率（%）	12.85	13.04	—	12.75		参考数値
インターネットアクセス件数(件)	310,232	277,716	278,000	274,419	98.7	B
中央図書館開館日数	295	295	—	297		参考数値
特別資料の転載等許可件数	168	136	—	123		参考数値
郷土資料受入点数	1,947	2,627	2,800	2,670	95.4	B
窓口対応満足度（大変よい＋よい）%<中央館のみ>	87.9	87.2	87.0	86.9	99.9	B
大活字本の所蔵冊数	6,778	6,929	7,000	7,011	100.2	A
新規購入冊数の割合	3.4% [34,382 冊]	3.6% [30,688 冊]	3.6%	3.3% [28,644 冊]	91.7	B

＊有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数
＊実登録者は有効登録者のうち年度内に１度以上貸出のあった登録者数

2　管理運営費

項　　目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	評価
図書館費 （各年度の決算額・千円）	382,650	361,413	338,548	
（うち施設管理経費）	257,927	259,323	222,155	
（うち資料費）	59,093	60,413	53,554	
（うち事業費）	65,630	41,677	62,839	

Ⅱ　重点事項評価について

1　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

（1）重点事業の事業別評価について

①貴重資料の公開

事業概要	・所蔵している貴重資料を定期的にエントランスで展示する。また、貴重資料について、デジタル化・公開していく。	
評価	A	評価理由
		エントランス展示で貴重資料の展示公開を充実させ、展示替えを Facebook にてお知らせした。

②郷土資料の充実

事業概要	・長岡市や新潟県に関係する歴史・人物・民俗などの郷土資料を収集し登録・保存活用する。 ・話題になった郷土資料を迅速に収集する。	
評価	A	評価理由
		・郷土資料の蔵書数は図書館全体で、今年度 2,670 冊受入れした。 ・郷土資料のデジタル化のための資料提供を行った。

③古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

事業概要	・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行などを行う。 ・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。	
評価	A	評価理由
		・古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、市民に向けて目録を公開し、長岡市史双書の刊行や古文書解読講座等の各種講座などで活用した。

④歴史公文書の収集・保存・活用

事業概要	・市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。 ・災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。	
評価	A	評価理由
		・庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

事業概要	・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 ・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫の資料とする。 ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新などの連携を強化する。 ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 ・刊行物の発行などをとおして、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由
		・長岡市災害復興文庫事業を推進し、市民協働と情報発信に努め、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信した。これにより、他の被災地の自治体・関係機関との連携につながった。

（２）重点事業の総括評価について

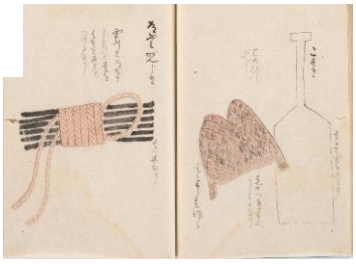
総括評価	評価理由
A	貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、長岡市災害復興文庫事業を推進し、長岡市資料整理ボランティアとの市民協働、全国の関係機関・団体との連携などをとおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信し反響があった。

（３）個別事業の実施結果について

①　貴重資料の公開

＜目的・概要＞

・中央図書館のエントランスでの貴重資料展示回数を確保するとともに、図書館報「図書館の窓から」でお知らせし、市民に所蔵資料を紹介する。

エントランス展示	資料デジタル化
	 越後佐渡デジタルライブラリー 
松岡譲関係資料展示	手稿本「越路之雪」岸千春

＜実績＞

① 資料デジタル化

ながおかネットミュージアムコンテンツの新規追加なし。

越後佐渡デジタルライブラリーでのデジタル化資料数１８点

（参考）ながおかネットミュージアムの資料点数２１４点

② エントランス展示回数

（令和元年度実績）　１４回　（平成３０年度実績）　１１回

「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料を展示するほか、井上円了の没後１００年や松岡譲の没後５０年に合わせた資料展示などを１４回行い、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。

＜課題・今後の方向性＞

財政状況が厳しい中、資料の新規デジタル化は難しくなっている。これからは既存のながおかネットミュージアムの活用のほか、今まである資料を館内でどのように展示などで活用するか方向性を検討したい。

②　郷土資料の充実

＜目的・概要＞

・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。

・行政からの収集のほか、新聞・雑誌、書店など出版情報の収集を行い、幅広い資料の収集に努める。

・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて継続して収集する。

＜実績＞

全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数

	全館郷土資料蔵書数 （各年度３月３１日現在の所蔵）	前年比 増加冊数
平成２７年度	91,143 冊	3,090 冊
平成 28 年度	94,465 冊	3,322 冊
平成２９年度	96,412 冊	1,947 冊
平成３０年度	99,039 冊	2,627 冊
令和元年度	101,016 冊	2,670 冊

・新聞・雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。

・資料収集家のお宅から寄贈を頂くなどの機会に恵まれた。

・郷土資料のデータ登録の際には目次情報を入力する等、検索の利便性向上を図った。

・各支所地域で出版された資料が図書館資料として寄贈されることが増えて、広報や寄贈依頼をつづけてきた成果となっている。

＜課題・今後の方向性＞

・郷土資料の収集においては、地域の情報を新聞や出版案内を基に情報収集するとともに、県内の情報を含めて網羅的に収集する必要がある。

・郷土資料の展示方法を工夫したり見出しをつけるなど、利用者の調べものに役立つよう整備を行いたい。

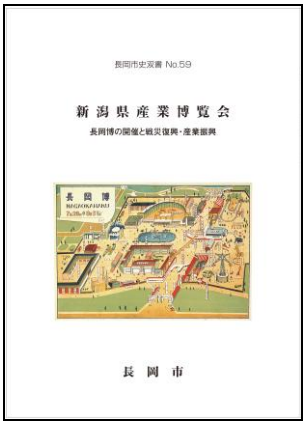
③　古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。

・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書№59



古文書解読講座「古文書のいろは」



＜実績＞

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、各種講座の開催・長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

（今年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	３回	１１５人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	各４回	１６６人	中央公民館
		６２人	中央図書館
長岡市史双書を読む会	２回	８６人	中央図書館

（参加人数は延べ人数）

・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数　１４件

（内訳：寄贈１０件・移管１件・寄託１件、購入２件）

・長岡市史双書№５９『新潟県産業博覧会　長岡博の開催と戦災復興・産業振興』　600 部刊行

・歴史資料取扱い相談受付数　１０件　（うち訪問調査回数　３件）

（昨年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	3回	１２７人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	各４回	１９３人	中央公民館
		６６人	中央図書館
長岡市史双書を読む会	2回	１０９人	中央図書館

（参加人数は延べ人数）

・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数　２４件（内訳：寄贈１９件・移管１件・寄託４件）

・長岡市史双書№.５８『蔵王権現領安禅寺御用記⑹』　６００部刊行

・歴史資料取扱い相談受付数　８件　（うち訪問調査回数　５件）

＜課題・今後の方向性＞

・古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」は、参加者の利便性を高めるため、水曜夜間（会場：中央公民館）と日曜午後（会場：中央図書館）に同内容で開催した。参加者のライフスタイルにあわせた申し込みがあり、新規の参加者もあり好評であった。

・長岡市史双書を読む会は、講義に加えて、双書の内容に関する史跡をめぐる現地見学会を開催し、参加者から好評であった。

・古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史資料を後世に伝えていくための意識付けをはかる普及活動を行っていきたい。

④　歴史公文書の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。

・歴史公文書の目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。

・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱	歴史公文書の整理作業
	

＜実績＞

（今年度実績）

・歴史公文書の目録件数　８３１点（７５箱）

　内長岡市災害復興文庫の歴史公文書９７点（１４箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　４件

（昨年度実績）

・歴史公文書の目録件数　８９２点（９５箱）

　内長岡市災害復興文庫の歴史公文書２３４点（２９箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　１１件

＜課題・今後の方向性＞

・庶務課と連携した目録の内部公開を行う。

・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討する。

・電子化された公文書の収集・保存方法を検討する。

⑤　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

＜目的・概要＞

・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。

・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。

・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。

・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新などの連携を強化する。

・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。

・機関誌やホームページなどをとおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市資料整理ボランティア（古文書整理）



長岡市資料整理ボランティア（新聞資料整理）



＜実績＞

（今年度実績）

・長岡市災害復興文庫事業

〇長岡市資料整理ボランティア＆十日町市古文書整理ボランティア交流会の開催

会場：十日町情報館　　参加者　１８人（長岡市９人、十日町市９人）

〇国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に中越大震災時に太田コミュニティセンターで撮影された記録写真１３１点を新規コンテンツとして追加した。

・長岡市資料整理ボランティアは、延べ１６回活動、延べ１５９人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で１回活動、２１人の参加があった。

（昨年度実績）

・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に中越大震災時に四郎丸コミュニティセンタ

ーで撮影された記録写真５８点を新規コンテンツとして追加した。

・長岡市資料整理ボランティアは、延べ２０回活動、延べ２４７人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で１回活動、４０人の参加があった。

＜課題・今後の方向性＞

・平成 26 年 10 月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのＰＲを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。

・今後も、国立国会図書館との連携などをとおして、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどとより一層の連携を図る必要がある。

2　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について

① 図書館蔵書の充実

事業概要	・市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌などの収集、活用、保存に努める。 ・地域図書館の図書（ビジネス書など）の充実を図る。	
評価	A	評価理由
		地域図書館も含めてビジネス書の充実を図ることができたため。

② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

事業概要	・図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。	
評価	A	評価理由
		寄せられた照会に対応し、市民の調査支援を行った。

③ 図書館の環境整備

事業概要	・安全・快適にご利用いただけるよう空調設備の入替等環境を整備する。	
評価	A	評価理由
		・経費面の制約はあるが、優先順位をつけ整備を行った。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	利用者のニーズに応じた資料の充実や施設改修により、利用者の利便性が向上した。

（３）個別事業の実施結果について

① 図書館蔵書の充実

＜目的・概要＞

・全館でビジネス支援コーナーを充実させ 650 冊のビジネス書を追加した。

・ビジネスコーナーに起業セミナーのチラシを置く等、利用者が情報を得やすい工夫を行った。

＜実績＞ ビジネス図書コーナー充実



中央図書館ビジネス支援コーナー



起業セミナーのポスター・チラシの設置

・幅広い層から利用されていたビジネス支援図書コーナーを充実させ、図書館の目立つ位置にコーナー展開をした。

・いままでビジネス書の新刊が少なかった地域図書館についても、利用しやすいビジネス書を置くことで、使える資料のある図書館として図書館の機能を利用者に知ってもらう機会となった。

・中央図書館ではＡＩやサブスクリプションなどの近年の話題のキーワードや、ドラッガーなどのビジネス書の基本となるもの、地域図書館では一般的なビジネス書のほか、「新潟県会社年鑑」などの資料を購入した。

＜課題・今後の方針＞

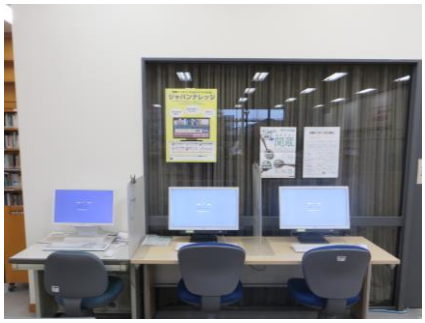
・ビジネスの分野は、求められる情報の移り変わりのスピードが速いため、今後も資料の新鮮さを保ちながら提供できるようにしたい。

・ビジネス書だけでなく、新刊図書を展示を工夫するなどニーズに応じた情報提供ができるように工夫したい。

②　レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

＜目的・概要＞

図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。

レファレンス窓口	オンラインデータベース
 レファレンスは窓口・電話・メール等で受けている	 ３台のパソコン　１回１時間利用

＜実績＞

・今年度は 52 件のレファレンスがあった。調査して回答できない場合は、文書資料室や県立図書館に調査協力を依頼し対応した。（平成３０年度 68 件）

例）・悠久山の松岡譲が住んでいた場所について
・浦瀬町の「高津谷展望台」について
・栃尾と与板の映画館について、場所と閉館時期を知りたい。
・すすきの穂を使う工作で、うさぎの作り方を知りたい。

・オンラインデータベースのＰＲとしてデータベース体験会を実施（12・１月　参加２名）

＜課題・今後の方針＞

・レファレンスについては、係内で協力して調査している。必要に応じて文書資料室や新潟県立図書館など関係機関に照会、協力依頼を行う。また国立国会図書館のレファレンス協同データベース等各種レファレンスツールを参考にしている。さまざまな照会に対応できるよう職員のスキルを向上させる必要がある。
・オンラインデータベース体験会の参加者が少なかったが、実施日を平日から土日に変更する、周知方法を工夫するなどし、参加者の拡大を図っていきたい。

③　図書館の環境整備

＜目的・概要＞

図書館を安全・快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

＜実績＞

日常の点検や利用者のご意見等から必要なものを選び、優先順位をつけ整備・改修を行った。

○中央図書館　　キュービクル内高圧機器等の改修

屋外照明器具を水銀灯から LED に交換

正面入口自動ドアの修繕

○地域館

・互尊文庫　　冷却塔の修繕工事

・南館　　空調設備の改修

多目的トイレ自動ドアの修繕

・北館　　空調設備改修工事の設計委託

・西館　　非常用バッテリーの交換



中央図書館　高圧受電盤



互尊文庫　冷却塔

＜課題・今後の方針＞

設備の老朽化により、改修しなければならない箇所が多くなっている。

限られた予算の中で、少しずつ計画的に実施していきたい。

3　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

（1）　重点事業の事業別評価について

① 所蔵版画展

事業概要	・中央図書館が、昭和 62 年の開館当初に収集した現代作家たちの版画や錦絵など、約 300 点を展示する。	
評価	A	評価理由
		所蔵する貴重な美術資料を一堂に展示する初めての機会となり、メディアにも取り上げられるなど高い評価を得た。

② 各種機関と連携した事業の実施

事業概要	まちゼミなど関係機関と連携した事業や、館外での図書館の PR、他施設と連携したタイムリーな展示コーナーの企画などを行う。	
評価	B	評価理由
		連携事業を実施したが、来館者の増加につながらなかった。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

事業概要	・特色資料に関連した、または地域の団体・学校などと連携した事業を継続し実施する。 ・調べる学習コンクールなど図書館資料を活用した事業を展開する。	
評価	AA	評価理由
		・各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や団体と連携した事業も積極的に実施した。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」の作品応募数が大幅に増加した。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
Ａ	来館者数は目標値を上回ることはできなかったものの、所蔵版画展や特設展示コーナーの設置など事業の質は高かった。

（３）個別事業の実施結果について

①　所蔵版画展

＜目的・概要＞

【目　的】中央図書館が所蔵する版画資料を初めて一堂にまとめて紹介し、所蔵資料の活用を図る。

【内　容】昭和 62 年（1987）の開館にあわせて収集した現代作家たちの版画を中心に、郷土資料の充実に貢献した反町茂雄文庫の錦絵、当館の特色資料である堀口大學コレクションや美術図書に含まれる版画等を展示した。

【作　家】安藤広重（初代・二代・三代）、月岡芳年、川瀬巴水、恩地孝四郎、竹久夢二、吹田文明、蕗谷虹児、小林ドンゲ、駒井哲郎、南桂子、李兎煥　草間彌生　佐藤忠良、田島征三、山下清、オノサト・トシノブ、富岡惣一郎、横尾忠則ほか

【点　数】版画 307 点（作家 241 人）、堀口大學コレクション 18 点、関連図書 31 点

【会　期】令和元年７月 19 日（金）～８月 12 日（月祝）　※開展日数２２日間

＜実績＞

【入場者数】1,888 人

【関連イベント】ゲスト講師による展示解説（２回）

① 大矢貞衛さん（オオヤ版画コレクションズ代表）
　参加者数　約 30 人

② 鈴木晃さん（版画家・新潟市美術協会会長）
　参加者数　約 30 人



・図書館という身近な場で、約 360 点もの多数の版画を無料で鑑賞することができ、様々な技法や時代による表現の違い等、版画の魅力を気軽に楽しめる機会となり、好評をいただくことができた。

・版画や所蔵資料、美術全般に興味があり、本展を目的にわざわざ来館された方も多かった。また、見た人からすすめられたという方、何度も来たという方もあり、図書館の利用拡大にもつながった。

・本展開催にあたり版画資料原本の状態確認、台帳整備、データ修正等の整理業務を行った。

・版画資料及び関連資料について「すばらしいコレクション」「長岡の財産だ」等の反響も多く、図書館における資料収集の重要性や意義を広くＰＲできた。

＜課題・今後の方針＞

・所蔵品の公開を目的とした展覧会を継続していくにあたり、内容がマンネリにならないよう、テーマや構成などに工夫が必要。

・新聞やテレビに取り上げてもらえるような積極的な広報が必要。

②　各種機関と連携した事業の実施

＜目的・概要＞

（１）他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。

（２）図書館外で、図書館の利用促進を目的とした事業や PR 活動を行う。

太宰 治生誕 110 年記念関連図書展示	こころの健康づくり
	

＜実績＞

（１）各種機関と連携し、館内に関連書籍を紹介するコーナーを設置した。

① 市役所他課との連携

・広報課「映画アルキメデスの大戦　山本五十六コーナー」（７・８月）

・健康課「本がお手伝い　こころの健康づくり」（８月）

・長寿はつらつ課「認知症ブックフェア」（９月に全館で実施）

・危機管理防災本部「防災関連図書」（１０月）

② 県内外の他施設との連携

「太宰治生誕 110 年記念　全国 47 都道府県の図書館で関連図書展示」（６月）

③ 市内の団体等との連携

・「長岡まちゼミ」（年２回）関連図書展示、５０種類のブックリストを作成し各店舗に配布した。

・新潟アルビレックスＢＢ選手のおすすめ本等を紹介、選手が夏休みボランティアに参加。

（２）まちなかで本と親しむ「まちぼン」の実施など

図書館外での出張展示「まちぼン」を実施した。（タニタカフェ、まちなかキャンパス、まちなか絵本館、ＵＣＣカフェ）４カ所で実施。Ｎａｄｅｃ　BASE に展示用図書貸出（毎月）

＜課題・今後の方針＞

・他の機関と協力することで、双方の事業のＰＲを行うことができた。また、仕事の交流が生まれたことで、今後につながる関係を築くことができた。

・連携事業により、従来の図書館にはないテーマ設定を行い、好評を得、中央図書館では貸出冊数増加等効果が見られた。今後も連携を行い、利用者にさまざまな情報提供できるよう工夫していく。

③　地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

＜目的・概要＞

・特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業を継続し実施するほか、図書館資料を活用した事業を展開する。

＜取り組みごとの内容・評価・課題＞

○特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業

ＹＡ朗読会	長岡農業高校出張園芸教室
	
北地域図書館にて、「おはなしおばけやしき」をテーマとした絵本の朗読会を行った。	南地域図書館にて、長岡農業高校の先生と生徒が講師となって、苔玉作りを行った。

＜実績＞

各地域図書館では、近隣にある団体や学校と連携した事業を定期的に行っている。

【YA 朗読会】北地域図書館では隣接する中越高校放送部の生徒や卒業生による絵本の朗読会を行った。幅広い年代の方に参加いただき、終了後には顧問の先生より高齢者施設から朗読の依頼があったと伺い、高校生の活動を発信する一助となった。

【長岡農業高校出張園芸教室】南地域図書館では、長岡農業高校生活環境科の先生と生徒を講師に、苔玉の作り方や管理方法などを指導していただいた。丁寧な作業説明や園芸に関する質問への積極的な回答に満足する感想が多く、また多世代の交流を図ることも出来たと思う。

その他にも、互尊文庫では長岡工業高等専門学校が講師となりプログラミングや算数を学ぶ「科学講座」、西地域図書館では信濃川河川事務所と連携した「しなのがわたんけん」を実施した。また、栃尾地域図書館では地域の街めぐりイベント『雁木あいぼ』に、図書館で不要となった本を提供する「ミニエコブックス」で参加した。

＜課題・今後の方針＞

それぞれの館において、今まで繋がりを深めてきた地域の団体や学校等とは、今後も事業を共に行うことで連携していきたい。また、読書週間、調べる学習コンクール、クラフト工作などにおいて、図書館資料をもっと利用してもらえるよう関連資料を活用した事業を展開していきたい。

○図書館資料を活用した事業（図書館を使った調べる学習コンクール in 長岡の実施）

事前説明会	審査会の様子
	
「何を調べるか」を決めることは子ども達にとって容易ではなく、好きなものや興味があるものを聞き出し、調べるテーマを決定してもらうことが毎回難しい。	審査会会場を中央図書館に変更。以前の北館会場よりも広くなったため、審査員の方々に見やすく展示することが出来た。

＜実績＞

今年度は市内 24 校の児童から 123 作品の応募があった（昨年度は２０校 77 作品）。今回、調べる作品づくりを １・３ 年全員で取り組んでくださった小学校があった。また、ある応募者の保護者の方より「卒業まで毎年コンクール作品を作りたいと言っている」というお話をいただき、大変嬉しく感じた。

応募作品数が大幅に増えたため、審査に時間がかかるかと思われたが、審査員の評価が合致する作品が多く、順調に進むことが出来た。特に花火や火焔土器、醸造など長岡になじみのあるテーマや、実際に飼育や調査などを取り入れた作品が上位に選ばれ、審査員の方々も「よくまとめている」と感心されていた。

なお、１月９日に全国コンクール結果発表があり、小学生中学年の部に推薦した作品が「優良賞」を受賞した。また、低学年・高学年の部に推薦した２作品は「佳作」を受賞した。

＜課題・今後の方針＞

今回「日程が合わず事前説明会への参加が難しい」という方が多かった。特に、事前説明会で配布する『作成キット』が欲しいというお申し出や、作品申込みの際の『応募カード』の問い合わせが続いたため、今後は図書館 HP への掲載等も考えたい。

４　長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	・平成２９年度に策定した「第２次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	AA	評価理由 ・読書週間イベントや学校でのブックトーク等をはじめ、子ども読書活動推進につながる数々の行事を実施することができた。 ・今年度から実施したベビーパックが好評で、延べ 865 回（2,595 冊）（元年８～12 月実績）の貸出しがあり、大変好評であった。 ・長岡市三島郡学校図書館協議会主催の教職員向けの研修会に講師として協力し、参加者から大変好評であった。

② 中高生向け図書館サービスの充実

事業概要	・図書館利用の少ない若者の図書館及び図書の利用増大を図る。 ・図書館の利用方法に関する問題を入れることにより、図書館の利用方法について学んでもらう。	
評価	B	評価理由 ・謎解きイベントは、参加者を増やすことができなかった。 ・YA コーナーのリニューアルにより、足をとめ本を手にする方が増加した。

③ 米百俵号による特別巡回の実施

事業概要	・地域で開催されているイベントで米百俵号による資料の貸出を実施する。広く市民の目に触れることで、図書館及び米百俵号の利用の拡大を図る。	
評価	A	評価理由 ・さまざまなイベントで米百俵号をＰＲすることにより、利用したことのない児童に広く体験してもらうことができた。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・ベビーパックや各種イベント等の取り組みを通じて、子どもの読書活動の推進につながる活動ができた。

（３）個別事業の実施結果について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

＜目的・概要＞

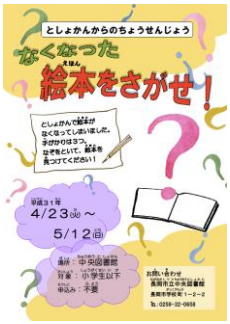
・平成２９年度に策定した「第２次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。

１．読書週間に合わせたイベントを実施し、読書習慣の普及を図る。

２．ベビーパック（赤ちゃん向け絵本の３冊パック）の貸出

読書週間イベント





20 冊貸出キャンペーンのチラシ

ベビーパック



児童コーナーに設置したベビーパック

＜実績＞

【読書週間イベント】

・こどもの読書週間と１０月の読書週間にあわせ、貸出冊数を 20 冊に増加するキャンペーンを行った。図書館や家読を紹介するリーフレットを市内全児童、全園児に配布し利用に結びついた。

・子どもの読書週間に合わせて、小学生向け謎解きイベントを開催、４３２名が参加した。

【ベビーパック】

・０歳から２歳を対象とした赤ちゃん向け絵本を３冊セットにして 8 月から貸出をした。「おやすみ」「どうぶつ」「のりもの」などの１０テーマを設け、司書があらかじめ選んだ絵本をセットにしているため、本を選ぶ時間のない方や赤ちゃんが喜ぶ絵本に悩んでいる方に好評であった。

利用者からは「簡単に借りられるから便利」「何を選んだらよいかわからないから助かる」といった感想をいただいた。

＜課題・今後の方針＞

・第２次長岡市子ども読書活動推進計画のもと、各年代を対象とした事業に、取り組む。

・さまざまなキャンペーンを行うことで、普段図書館を利用しない層にも読書習慣のきっかけづくりを進める。

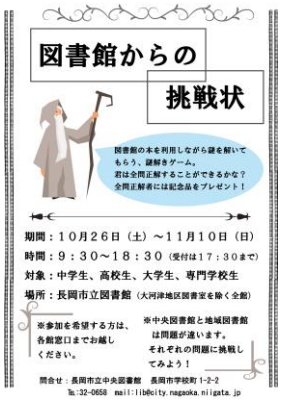
・ベビーパックが好評であったため、今後ほかの年齢層に対してもセット貸出を試み、読書の普及を図りたい。

②　中高生向け図書館サービスの充実

＜目的・概要＞

・若年層に人気の謎解きゲーム「図書館からの挑戦状」を開催することで、利用の少ない若者の図書館及び図書の利用拡大を図る。地域館でも実施することにより、地域館の利用増大を図る。

・中高生向けコーナーをリニューアル、広報による利用促進を図る。

謎解きイベント「図書館からの挑戦状」	ＹＡコーナーリニューアル
	
「図書館からの挑戦状」ポスター	リニューアルしたＹＡコーナー

＜実績＞

【イベント】

・参加者からは、「難しかったけど楽しかった」「達成感があった」という感想を多くいただいた。

・図書館の各コーナーを回ってもらうような問題を作成することで、図書館を良く知ってもらうよう工夫できた。

（今年度実績）

参加者数　１７人（昨年度２６人）

【YA コーナーのリニューアル】

・研修会の講師より、効果的な展示方法についてレクチャーを受け、表紙見せ展示に改善した。

・自習室前に中高生向け図書を設置した。借りたい場合は２階で貸出ができるようにした。

【中高生向け広報誌Ｙｏｕｎｇ－ｊｉｎ】

・中高生向け広報誌Ｙｏｕｎｇ－ｊｉｎの紙面をリニューアルし、市内の全中学生と各高校に配布した。

＜課題・今後の方針＞

・今年度は高校生の謎解きイベントへの参加が少なかったため、今後高校生へのＰＲに注力したい。

・中高生が図書館に興味を持ってもらえるような展示や蔵書構成に配慮したが、実際の図書の利用にはまだ結び付いていないと感じる。今後も広報に力を入れていきたい。

③　米百俵号による特別巡回の実施

＜目的・概要＞

・地域で開催されているイベントに参加し、自動車文庫「米百俵号」による資料の貸出・返却、貸出カードの作成等を行う。

・「米百俵号ブックカーニバル」では、夏休み期間に、本の貸出やおはなし会・工作等を行う。



イベントのテーマである米百俵や長岡の歴史に関する本のコーナーを車外に設置。実際に使用していた昔の本を運ぶ木箱も。（米百俵まつり）



児童館でのおはなし会の様子。（米百俵号ブックカーニバル）

＜実績＞

【特別巡回】

・初参加の和島地域のイベントでは、晴天に恵まれ、親子連れや元気な小学生グループ等にぎわった。

・米百俵まつり等、市外からの来場者にも、広く図書館や米百俵号のＰＲをするよい機会となった。

（今年度実績）４回実施　参加者数　１，４５０人　貸出冊数　282 冊

① 米百俵まつり　　10 月５日（土）　利用者数 508 人　貸出冊数 59 冊

② とちびまつり　　10 月６日（日）　利用者数 54 人　貸出冊数 23 冊

③ 生涯学習フェスティバル IN ワシマ　10 月 20 日（日）　利用者数 74 人　貸出冊数 38 冊

④ 雪しかまつり　　２月 15 日（土）　利用者数 358 人　貸出冊数 51 冊

16 日（日）　利用者数 456 人　貸出冊数 111 冊

（昨年度実績）４回実施　参加者数 962 人　貸出冊数 601 冊

【米百俵号ブックカーニバル】

・夏休み中のイベントとして児童館や児童クラブから毎年好評である。

（今年度実績）　７回実施　参加者数　213 人　貸出冊数　339 冊

（昨年度実績）　６回実施　参加者数　261 人　貸出冊数　313 冊

＜課題・今後の方針＞

・より多くの市民が集まるイベントに参加し効果的なＰＲができるよう、支所及び主催者と綿密に打ち合わせを行い、ニーズに合わせた選書等準備を行う必要がある。

・イベント会場が取次所や米百俵号のステーションの場合は、事前の周知をもっとしっかり行い継続した利用につなげるような工夫が必要である。

５　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

（１）重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

事業概要	・毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。	
評価	A	評価理由
		・アンケートにより利用者のニーズを把握し、書庫で保管している図書を閲覧室に出すなど業務に活かすことができた。

②友の会事業

事業概要	・利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通じて図書館を支援いただく。	
評価	AA	評価理由
		・古本市や視察研修、交流会等積極的に活動をされ、事務局も適切な支援を行った。

③ご意見ポストの設置

事業概要	・寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。	
評価	A	評価理由
		・評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

（３）個別事業の実施結果について

①　利用者アンケート

＜目的・概要＞

・例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握する。

【中央図書館】	【地域図書館】
〈利用者アンケート〉 ○ 館内や本棚の表示について ○ 本の種類の充実度について ○ 図書館の本やサービスが役立ったか ○ 希望するサービスについて など	＜利用者満足度アンケート＞ ○スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（３項目） ○施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報(４項目) ○図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて(５項目)

＜実績＞

○ 中央図書館のアンケート　（８月 17 日～23 日）

アンケートは時間を決めてエントランスで配布。夏休みボランティアに参加している中学生も配布を担当した。窓口応対については、「大変よい」＋「よい」が 86.9%と概ね好評をいただいた。

（今年度実績）　配布数　596　回収数　539　回収率　90.44%　Web　32 件
（昨年度実績）　配布数　1,037　回収数　780　回収率　75.22%

○ アンケート結果への対応

・窓口応対については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。

・中央図書館前の枯れたケヤキを伐採した。

○ 地域図書館のアンケート　（８月２日～18 日）

（今年度実績）　配布・回収数　948（全て回収）

（昨年度実績）　配布・回収数　1,689（全て回収）

昨年度は「指定管理者施設利用者満足度調査」の実施のため、実施期間を長くし多くの回答を得たが、今年度は例年程度の配布・回収としたことにより、回収数は減少した。今回もスタッフの対応について良い評価をいただくことが出来た。

＜課題・今後の方針＞

【中央図書館】

・リクエスト（購入希望）を１週間に１件と制限したことに苦情や要望があった。理解を求めたい。

【地域図書館】

・要望としては資料の充実に関するものが多かった。旅行、俳句、ランニングなど具体的な分野の購入を望む声もあったので、選書時の参考としたい。

②　友の会事業

＜目的・概要＞

図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。

図書館視察



４月１９日（金）
市内３大学図書館
参加者　１４名
会員からは、個人ではあまり利用する機会のない大学図書館を見学できて、良い経験になった等の声が多数聞かれた。

なりふ古本市



１０月 １２日（土）
11 時～15 時

入場者 67 名
会員参加者 3名

240 冊販売し、売上 3,640 円を社会福祉協議会へ全額寄付した。

柏崎市立図書館視察後援会との交流

１１月１５日（金）１４時～１５時
参加者　柏崎市立図書館後援会会員　７名
　　柏崎市立図書館職員　　２名
　　長岡図書館友の会会員　　６名



中央図書館内を案内した後、交流会を開催。
双方の活動紹介を行った後、質疑応答が行われた。長岡のボランティアの精力的な活動に驚かれ、活動を続ける秘訣が話題になる等活発な意見交換が行われた。

＜実績＞

５回目となる「なりふ古本市」は、台風による悪天候により来場者は全体的に少なめだったが、開始前から並ぶ人も見られ本を通じた市民との交流が見られた。交流会では柏崎、長岡それぞれの会の成り立ちや趣旨に違いはあるものの、より良い活動を継続する励みとなった。今後も会員の要望を聞きながら、図書館活動の応援に繋がる取組を行いたい。

（今年度実績）
なりふ古本市・映画会開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、柏崎市立図書館の視察受入など
個人会員　４２名　賛助会員　９口

（昨年度実績）
なりふ古本市・映画会開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など
個人会員　４３名　賛助会員　５口

＜課題・今後の方針＞

古本市等のイベントを通して、幅広い世代に友の会について知ってもらい、新規会員の加入促進に繋げたい。また、今後も会員が主体となった企画・運営の取組みへの支援を行い、より魅力的な図書館サービスを行いたい。

③　ご意見ポストの設置

＜目的・概要＞

・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。

・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。

＜主な要望＞

（中央図書館）

・資料の無断撮影を禁止する旨をもっと周知してほしい。

・「●●●」に関する資料を入れてほしい。

・開館時間を延長してほしい。

など

（地域図書館）

・椅子のクッションを柔らかく、または座布団設置等の対応はできないか。

・閲覧席で居眠りをしている人がいて、座ることが出来なかった。改善してほしい。

など

＜実績＞

（中央図書館）

・毎月意見を集約し、可能な限り対応した。

・窓口応対については、おおむね好評価をいただいている。

・スマートフォンの通話利用等（無断撮影の禁止も含む）について、注意喚起を促す掲示を行った。

・図書・雑誌への書き込みに関して苦情があり、書き込みがある資料に書き込みがある旨のシールを貼付、注意喚起のポスターを掲示した。

（地域図書館）

・意見に対し可能な限り対応した。

・学習室には貸出用の座布団を設置済だが、閲覧室はソファー席があることからも貸出用のものは置いていない（一部の席には座布団の設置あり）。利用の場合は、設置されているものを席に持って来て利用していただきたい旨回答。

・「ほかに着席したい方もいらっしゃいます。横になる、眠るはご遠慮ください。」という貼り紙を作成し、閲覧席や新聞コーナーに設置し注意喚起を行った。

＜課題・今後の方針＞

普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったので、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。

６　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

（１）重点事業の事業別評価について

① 外部研修

事業概要	・県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。	
評価	A	評価理由 ・県内外の研修に参加し、研修の概要を参加者が全体会議や係研修で報告し、情報の共有を図った。 ・昨年度に比べ参加人数が減少したものの、研修の成果を有効に活用している。

②職場内研修

事業概要	・職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由 ・係内研修を２回行うほか、少人数でブックトーク練習会や新聞マイクロフィルムの使い方講習、データベース研修を行うなど工夫した。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

（３）個別事業の実施結果について

①　外部研修

＜目的・概要＞

・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。

・地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度も積極的に参加する。

＜参加研修＞

①新潟県公共図書館新任職員研修	５月２２日、２３日（中央館３名、地域館１名参加）
②新潟県公共図書館児童部門研究集会	６月２６日（中央館１９名、地域館６名参加）
③著作権セミナー	８月３０日（中央館１名、地域館３名参加）
④子ども読書レベルアップ研修	８月２１日、９月６日、９月２０日 （中央館計２名、地域館計５名参加）
⑦新潟県公共図書館中堅職員研修会	９月２０日（中央館４名、地域館２名参加）
⑨図書館総合展	１１月１２日～１４日（中央館１名参加）
⑩総合部門研究集会及び協議会委員連絡協議会	１０月１６日（中央館４名、地域館１名参加）
⑪関東・甲信越静地区図書館地区別研修	１１月２７日、２８日（中央館１名参加）
⑫新潟県内図書館実務担当者会議	１２月６日（中央館１名、地域館１名参加）
⑭国際子ども図書館児童文学連続講座	１１月１１日、１２日（中央館１名参加）
⑮新潟県公共図書館職員専門研修会	２月２７日（中央館１名、地域館１名）

＜実績＞

（今年度実績）	中央図書館	４３名　参加	地域図書館	２０名
（昨年度実績）	中央図書館	５５名　参加	地域図書館	２３名　参加

・中央図書館では、昨年度と同様に県内外での研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。係研修で情報共有し、今後の業務に活かしたい。

・地域図書館では、県立図書館等が主催する研修に例年並みに参加することができた。

＜課題・今後の方針＞

〇中央図書館

・外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。

〇地域図書館

・県立図書館主催の外部研修には今後も継続して参加していきたい。勤務人数の都合上、全館平等に参加することが難しいことから、研修報告と資料を各館で回覧・共有することとした。

② 職場内研修

＜目的・概要＞

・係研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行ったりすることで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。

・地域図書館ではスタッフの能力育成のため、年３回の全体研修を行っている。今年度は実務に役立てられるテーマを選定し、研修を実施する。

＜研修内容＞

〇中央図書館

① 消防避難訓練　９月３０日
② 係内研修（長岡空襲と互尊文庫）　７月３１日
③ 新潟県立図書館訪問研修　９月３０日レファレンス研修　25 名参加
④ 研修報告会（　児童文学講座　関東甲信越地区研修）　１月３１日
⑤ 研修報告会（図書館総合展）・研修（ＦＢ文章の書き方/人権上配慮が必要な資料）２月 27 日

〇地域図書館

① 長岡・燕・三条合同研修　５月２０日、６月１７日
　危機管理対応としての接遇　講師：ＴＲＣ関西支社　谷口保孝
　YA サービスについて　講師：ＴＲＣ首都圏学校担当 AM　樋口右子
　除架と除籍について　講師：ＴＲＣ顧問　小畑信夫
② 長岡全体研修　９月３０日
　児童サービス実務について　講師：佐賀女子短期大学名誉教授　白根恵子氏
　個人情報保護研修　講師：渡辺業務チーフ
③ 各館研修　１月３１日　メンタルヘルスについて　ＴＲＣ配信ｅラーニングで受講

＜中央図書館、他市ＴＲＣ研修への参加＞

① ＴＲＣステップアップ研修（５名参加）　５月 29 日
② TRC レベルアップ研修（９名参加）　１０月９日
③ ＴＲＣ新人研修　１１月１８日（１名参加）

＜実績＞

（今年度実績）　中央図書館　５回実施　地域図書館　３回実施
（昨年度実績）　中央図書館　９回実施　地域図書館　４回実施

中央図書館では係研修を行うほか、外部研修に派遣された職員が、研修内容について報告を行い、・情報共有を行った。休館日にブックトーク研修やデータベース研修を行った。

地域図書館では人員の入れ替わりにより経験の浅いスタッフも多いことから、ＹＡ・児童サービス、除籍など実務に役立つ研修を中心に行った。

＜課題・今後の方針＞

中央図書館では、図書館事業をより充実させるため、サービス向上につながる研修を継続して行いたい。係研修のほか、少人数での研修を行うなど、係全体のスキルアップを図りたい。

地域図書館では、今年度月末の特別開館日が５回と例年より多いことから、月末作業に支障が出ないよう全体研修の１回を、それぞれの館で同一の研修を行うこととした。ＴＲＣが全国受託館に配信するｅラーニングを活用した。